平成30年度 第2回 埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会 議事録

期 日 平成30年8月10日(金)
場 所 蕨市民会館 4階 402室
開 会 9:30
閉 会 11:50

出席委員 戸田市教育委員会 戸ヶ崎 勤 教育長
戸田市教育委員会 仙波 憲一 委員
蕨市教育委員会 松本 隆男 教育長
蕨市教育委員会 加藤 正明 委員

事務局 戸田市教育委員会 清水 彩子 次長兼教育政策室長
戸田市教育委員会 川和田 亨 教育政策室指導担当課長
戸田市教育委員会 手塚 浩 教育センター所長
戸田市教育委員会 布瀬川裕貴 主幹兼指導主事
蕨市教育委員会 杉田 勝弘 教育部次長
蕨市教育委員会 松永由美子 指導係長
蕨市教育委員会 長岡 潤 指導主事
蕨市教育センター 五十嵐詩郎 主任指導員

傍 聴 人 8名

1	開 会	司 会	・ 開会の言葉
2	事務局からの連絡	司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日程の説明、本日の資料について、及び傍聴人規則について確認する。 (傍聴人入場) ・ 傍聴人の方に申し上げる。事務局職員から説明しているが、静粛に傍聴されるようお願いする。会議を妨害したり、迷惑行為を行ったりした場合には、「傍聴人規則第6条」の違反により、退場を命じることがある。 ・ 埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会会長、蕨市教育委員会 松本隆男 教育長から挨拶をいただく。
3	挨拶	会 長	・ 挨拶
		事務局	・ 議長については、「埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会規約第9条第2項」により、松本隆男会長にお願いする。
4	議 事	議 長	・ 議事に入る前に確認をする。会議録については、要点のみを記録することによろしいか。また、発言者については、実名でなく議長または委員という形によろしいか。
		委 員	・ 異議なし。
		議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回採択協議会議事録の署名委員について確認する。第1回採択協議会で署名委員を決めているので、本日の署名委員については、戸田市教育委員会の戸ヶ崎委員、及び、仙波委員にお願いする。 ・ 本日の協議会の内容等について確認する。 次第の議事にあるとおり、内容(1)から(6)までとする。(4)と(5)については、保護者代表による研究結果の聴取及び専門員の調査研究結果の報告を受ける。
	(1) 報 告 展示会場の閲覧状況	議 長	・ それでは、議事に入る。はじめに、「(1) 報告 教科用図書展示会場の閲覧状況について」事務局から説明をお願いする。

	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度教科用図書展示会場の閲覧状況について御報告する。教科用図書展示については、戸田市立教育センターにおいて、6月15日から6月28日までの14日間開催した。保護者・一般の方32名、学校関係者35名、教育委員会等関係者3名、計70名の方が閲覧した。 また、閲覧の際にアンケートの御協力をいただいたが、アンケートでは、「ねらいやテーマが明確に書かれており、理解しやすい。」「どの教科書も生徒が主体的に道徳の授業を受けられる工夫がなされている。」等の声をいただいている。アンケートを取りまとめたものを回覧するので、ご覧いただきたい。 (アンケート回覧)
	議長	<ul style="list-style-type: none"> 何か質問はあるか。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> なし。
(2) 道徳を除く小学校教科用図書の研究結果の報告・質疑応答	議長	<ul style="list-style-type: none"> それでは次に、「(2) 道徳を除く小学校教科用図書の研究結果の報告・質疑応答」について、事務局から願います。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 道徳を除く小学校教科用図書の研究については、第1回採択協議会において、今回採択する教科書が現行の学習指導要領によるものであり、平成31年度のみ使用となること、また、この度、各教科書発行者より新たな教科書が著作・編集されていないことから、専門員を選任しない形で進めることと決定している。 また、教科書研究については、各小学校から4年間の使用実績を踏まえた意見を聴取するとともに、蕨市・戸田市の両教育委員会事務局から各教科において担当指導主事を配置し、平成26年度採択における調査研究の内容等を活用して研究し、報告する形で進めることと決定している。 これらのことを踏まえた調査研究結果の報告を蕨市・戸田市の両教育委員会事務局を代表して蕨市教育委員会会長岡指導主事より申し上げる。 なお、教科ごとに調査研究結果の報告に続けて、委員の

皆さまからの質疑応答を行う形で進めたい。

事務局
(担当)	・ 先ほど、司会からも説明のあったとおり、今回の調査研究は平成26年度採択結果を踏まえて行っている。このため、「平成27年度使用小学校用教科用図書専門員調査研究結果報告書」に沿って、目録順に種目ごと1社ずつ報告する。・ (報告書に基づいて国語科5社について報告する。)・ (報告書に基づいて書写6社について報告する。)
議 長	・ 「国語科」は現在「光村図書出版」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・ 「単元の目標が最初に示されており、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる。」「写真や絵が児童の実態に即しているため理解しやすい。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けている。
議 長	・ 「書写」についても、現在「光村図書出版」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・ 「課題解決型の学習を取り入れているため、児童の思考力を高めるのに適している。」「国語の教科書との関連も分かりやすい。」等のご意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けている。
議 長	・ 他に質問はないか。
委 員	・ なし。
議 長	・ 次に「社会科・地図」についての調査研究結果の報告をお願いします。
事務局
(担当)	・ (報告書に基づいて社会科4社について報告する。)・ (報告書に基づいて地図2社について報告する。)

- 議 長
- 事務局
(担当)
- ・ 「社会科」は現在「東京書籍」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
 - ・ 「各学年のはじめの単元で問題解決的な学習の進め方が示されているので、児童が主体的に学習に取り組むことができる。」また、「どのように学習を進めていくのか手がかりになるページがあり、見通しをもって勉強ができる教科書である。」等の意見をいただいております、問題なく使用できている報告を受けている。
- 議 長
- 事務局
(担当)
- ・ 「地図」については現在「帝国書院」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
 - ・ 「地図を読む技能を高めるための細かな記述と、子供たち自身が自分の力で学習を進めることが容易に感じられる地図帳である。」また、「基本図、部分図とも、ちょうどよい分量で使いやすい。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けている。
- 議 長
- ・ 他に質問はないか。
- 委 員
- ・ なし。
- 議 長
- ・ 次に「算数科」についての調査研究結果の報告をお願いします。
- 事務局
(担当)
- ・ （報告書に基づいて6社について報告する。）
- 議 長
- ・ 「算数科」は現在「東京書籍」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
- 事務局
(担当)
- ・ 「児童の思考のヒントが書かれており、自ら解法を考える手助けとなる。」また、「保護者や児童向けに教科書の使い方が記述されており、家庭との連携も配慮されている。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けている。
- 議 長
- ・ 他に質問はないか。

委員	・なし。
議長	・次に「理科」についての調査研究結果の報告をお願いする。
事務局
(担当)	・（報告書に基づいて5社について報告する。）
議長	・「理科」は、現在「大日本図書」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・「実生活との関連から始まり、問題解決を経て、最後が実生活に戻るという流れで構成されており、理科を学ぶ有用性を感じながら学習することができる。」また、「小学生の科学的素養を高める工夫、理科的な思考力を喚起する表現やデータの掲載など、教師にとってとても使いやすい教科書である。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けている。
議長	・他に質問はないか。
委員	・なし。
議長	・次に「生活科」についての調査研究結果の報告をお願いする。
事務局
(担当)	・（報告書に基づいて7社について報告する。）
議長	・「生活科」は現在「東京書籍」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・「入学当初の指導に適したスタートカリキュラムを設け、小学校教育と幼児教育の接続に配慮されており、円滑に生活科の学習に取り組むことができる。」また、「『ポケットずかん』や『べんりてちょう』があり、児童の気付きの質を高める資料が充実している。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けている。

議 長	・ 他に質問はないか。
委 員	・ なし。
議 長	・ 次に「音楽科」についての調査研究結果の報告をお願いする。
事務局
(担当)	・ (報告書に基づいて2社について報告する。)
議 長	・ 「音楽科」は現在「教育芸術社」の教科用図書を使用しているかと思うが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・ 「児童がめあてを意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるような単元構成になっている。」また、「鑑賞教材では、音楽の変化を場面の様子の絵と関連付けられるようになっておりわかりやすい。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けています。
議 長	・ 他に質問はないか。
委 員	・ なし。
議 長	・ 次に「図画工作科」についての調査研究結果の報告をお願いする。
事務局
(担当)	・ (報告書に基づいて2社について報告する。)
議 長	・ 「図画工作科」は現在「開隆堂出版」の教科用図書を使用しているが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・ 「巻末に『パレットコーナー』、『道具箱』が設けられており、各学年で取り扱う材料や用具等がわかりやすく記述されている。」また、「作品や写真を大きく掲載し、文字を少なくすることで、児童の構想の手掛かりや発想が広がりやすくなるように工夫されている。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けています。

議 長
委 員	・ 他に質問はないか。
・ なし。
議 長	・ 次に「家庭科」についての調査研究結果の報告をお願いします。
事務局
(担当)	・ (報告書に基づいて2社について報告する。)
議 長	・ 「家庭科」は現在「開隆堂出版」の教科用図書を使用しているが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・ 「基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のため、簡単なものから繰り返し積み上げて学習する構成になっている。」また、「学習の流れが明確であるため、児童が見通しをもって学習できる。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けています。
議 長	・ 他に質問はないか。
委 員	・ なし。
議 長	・ 最後に「保健」についての調査研究結果の報告をお願いします。
事務局
(担当)	・ (報告書に基づいて5社について報告する。)
議 長	・ 「保健」は現在「学研教育みらい」の教科用図書を使用しているが、各小学校での使用感はどうか。
事務局
(担当)	・ 「单元ごとに学習情報が掲載されており、わかりやすい。」また、「身近な場面を取り上げることで、児童が自分のこととして健康や安全について考えられる工夫がされている。」等の意見をいただいております、問題なく使用できていると報告を受けています。
議 長	・ 他に質問はないか。
委 員	・ なし。

(3) 協議

議 長	・ 全体を通して質問はあるか。
議 長	・ 今回選定する教科書はすべて移行期間のカリキュラムに対応しているか。
事務局
(担当)	・ 今回選定するすべての教科書について、新たな著作・編集はないが、すべて移行期間のカリキュラムに対応している。
委 員	・ 両市において、この教科書を使って、児童の学力はどのように変化した状況なのか。
事務局
(担当)	・ 蕨市、戸田市における、ここ数年の児童の学力の状況は両市ともに良好である。近年の全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査の国語、算数の結果も良好である。
議 長	・ 他に質問はないか。
委 員	・ なし。
議 長	・ 以上で、調査研究結果の報告を終わる。
・ それでは、採択協議会規約第11条に基づき、道徳を除く小学校全教科の教科用図書を選定を行う。
・ 各教科の研究結果の報告と各小学校における、4年間の使用実績を踏まえ、適切であると判断できることから、平成31年度についても、引き続き現在使用している各教科書を選定したいと考えるがいかがか。
委 員	・ 異議なし。
議 長	・ では、選定結果について確認をする。

・ 国語科は、「光村図書出版」
書写は、「光村図書出版」
社会科は、「東京書籍」
地図は、「帝国書院」
算数科は、「東京書籍」
理科は、「大日本図書」 |

	生活科は、「東京書籍」 音楽科は、「教育芸術社」 図画工作科は、「開隆堂出版」 家庭科は、「開隆堂出版」 保健は、「学研教育みらい」 となる。よろしいか。
委員	・ 異議なし。
議長	・ 各市教育委員会においては、道徳を除く小学校教科用 図書について、本日の選定結果に基づき採択をしてい ただくことになるので、よろしく願います。 ・ それではここで、10分間休憩とする。
(4) 保護者代表によ る研究結果の 聴取	議長 ・ それでは、議事を続ける。 続いて、「(4) 保護者代表による研究結果の聴取」に移 る。 ・ 第1回埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会で確 認したとおり、中学校の「特別の教科 道徳」の教科用 図書の選定については、保護者代表による研究結果の 聴取及び専門員の調査研究結果の報告を受ける。事務 局より、よろしく願います。
事務局	・ 保護者代表については、蕨市、戸田市の各 PTA 連合会 に依頼し、代表の方を推薦していただいた。教科用図書 全般にわたって研究していただいたので、その結果に ついて事務局より報告させていただく。
事務局 (担当)	・ はじめに蕨市の保護者代表による研究結果について報 告する。 ・ 「表記・表現について」各教科書とも、文字フォントや 行間、レイアウト等で、よく工夫されており、見やすく 読みやすく作られている。難しい熟語や固有名詞に対 しては、注釈が付けられており、生徒が初見でも教材を 理解できるように配慮されている。 ・ 「資料、挿絵や写真、図などについて」質の高い写真や きれいな挿絵が多く掲載されており、生徒が興味関心

をもって学習できる工夫がされている。

- ・ 「読み物教材 (内容) について」生徒の心に訴えるような物語文や、身近な経験として考えさせる漫画など、内容について進んで考えたり、話し合ったりしたいと思えるように作成されている。どの教科書でも、生命尊重やいじめ問題、情報モラルについて扱っていて、昨今の子供たちの問題を十分意識していると感じた。
- ・ 「その他」教科書によっては、教材の終わりのページや別冊ノートを活用し、自分の考えを記入する工夫がされていた。生徒は考えを深めたり確かめたりことができ、教師は生徒の評価に生かすことができると思った。どの教科書も、テーマ毎のイメージカラーを決めており、タイトルを見たときに何について学習するのかがわかりやすくなっている。

事務局
(担当)

- ・ 続いて、戸田市の保護者代表による研究結果について報告する。
- ・ 「表記・表現について」見出しに道德の教科の考え方や、学習の趣旨等が書かれていると、先生が生徒に指導しやすいのではないかと感じた。
- ・ 「分量について」文字が多いと生徒によっては読みづらいこともあるのではないかと感じた。生徒の意見や考えを引き出したり、意見交換をしたりする授業内容だと、量が多いのではないかと感じる物もあった。
- ・ 「資料、挿絵や写真、図などについて」挿絵や写真の量はばらつきがあり、一概には言えないが、漫画風やキャラクターなどがおり混ざっていると生徒の興味をひきやすいのではないかと感じた。
- ・ 「読み物教材の内容について」概ね、教材についてはバランスが良いと感じた。生命尊重、いじめ問題、社会情勢など学んで欲しい内容が取り込まれていた。スポーツ選手や過去の偉人等、題材は多岐に渡っていて学習意欲をそそるのではないかと感じた。
- ・ 「その他」どの教科書が採択されても問題無いように感じた。3年間学ぶ教科書であり、生徒の心の教育に大きく影響するものと思われるので慎重、公正に採択されることを希望する。

(5) 専門員の調査研究結果の報告・質疑応答 (道徳)	議長	<ul style="list-style-type: none"> 次に(5)専門員の調査研究結果の報告・質疑応答に移る。資料1の採択協議会規約第13条により、設置した専門員からの調査研究結果の報告を行う。事務局から説明をお願いします。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> それでは、手元の専門員調査研究報告書をご覧ください。 (専門員代表入室)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> それでは、調査研究の報告をお願いしたい。
	議長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、目録の順でまいる。
	専門員代表	<ul style="list-style-type: none"> (報告書に基づいて8社について報告する。)
	議長	<ul style="list-style-type: none"> ただいまの道徳の説明について、質問等はあるか。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> 今回の学習指導要領の道徳について、「考え、議論する道徳」というものになっているが、各社その観点について、どのように反映されているか。
	専門員	<ul style="list-style-type: none"> 東京書籍では、巻頭の「話し合いの手引き」を開いた状態で、それを見ながら話し合いが進められるようになっているとともに、巻末の「心情円」や「ホワイトボード用紙」を活用して、自分の考えをまとめ、話し合いに生かす工夫がされていた。 学校図書では、自ら課題意識をもち、多面的・多角的に深く考えるため、発問「学びに向かい合うために」が設けられていた。また、「問題解決的な学習」、「体験的な学習」を発問の中に取り入れ、独立した型にこだわらず、多様な学習形態を活用し、話し合いを通して考えを深めていくことができる構成になっていると感じた。 教育出版では、教材を通してどんなことを考えていくかの意識付けをする問いが記載されており、学習のねらいを明確に把握させることができるとともに、「学びの道しるべ」に記載されている3つの問いを活用することで、道徳的価値の理解を深める工夫がされていた。 光村図書では、それぞれに、「学びのテーマ」が設定さ

れており、テーマに迫るために「道徳的な問題を明らかにする問い」、「道徳的な価値について理解や自覚を深める問い」、「自分に引きつける問い、テーマ的な問い」の3つの発問が設けられており、生徒の興味・関心を引き出し、心を揺さぶり、生徒の道徳に対する考えを更に深める工夫がされていた。

- ・ 日本文教出版では、参考例としての「学習の進め方」が設けられていた。写真で対話的・協働的な学習場面が例示されており、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的学習を進めることを通して、多面的・多角的な深い学びができると感じた。
- ・ 学研では、主体的・対話的で深い学びを実現させるために、「クローズアップ」、「深めよう」、「クローズアッププラス」の3種類の特設ページのどれかがついており、多様な学習指導過程が考えられるようになっており、生徒自ら学習を進める工夫がされていた。
- ・ 廣済堂あかつきでは、本冊と道徳ノートの2冊構成になっており、書くことを通して自問と内省へと導き、道徳性を深めることができるようになっており、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すための手がかりとなるような問いが示してあり、考えを深められる工夫がされていた。
- ・ 日本教科書では、冒頭の「道徳科って何を学ぶの？」を通して1年間の授業の流れをつかむことができるようになっていた。教材ごとに「考え、話し合ってみようそして深めよう」では、生徒が主体的に考えられる問いや、生徒の思考を促す問いが設定されており、考え、議論しやすい構成になっていると感じた。

委員

- ・ どの教科書会社も工夫されていると認識しているか。

専門員
代表

- ・ 専門委員としてはそのように考えた。

委員

- ・ 道徳の教科化の理由の1つに「いじめ」の問題があるが、教科書ではどのように取り扱われているか、お聞きしたい。

専門員
代表

- ・ 東京書籍では、全学年で「いじめ」、「いのち」について、複数教材を組み合わせたユニットが配置され、多面的・多角的に考えることができるようになっていた。
- ・ 学校図書では、いじめ防止のために、直接教材、間接教材で、いじめを「起こさない」、「許さない」断固たる心情を育てるようになっていた。
- ・ 教育出版では、全学年を通して、「生命の尊さを考える」、「いじめや差別のない社会に」、「情報とよりよく付き合う」の3項目を重視し、多角的・多面的に考えることができるようになっており、学期をまたいで繰り返し考えるようになっていた。
- ・ 光村図書では、「いじめ問題」について、「しない」、「させない」、「見逃さない姿勢」が系統的に学べるようにコラムも含め設定されており、発達段階に応じて、いじめ問題の解決に向けて、道徳性が育成できるようになっていた。
- ・ 日本文教出版では、いじめ防止を全学年で重点項目とし、コラムを組み合わせたユニットを複数配置し、「生命の尊さ」については、その連続性等について多面的・多角的に考えられるようになっていた。
- ・ 学研では、「いのちの教育」を全学年のテーマにしている。内容項目の「いのちの尊さ」の教材3点を用意し、さらに他の内容項目の教材を用いて複数の観点から「生命の尊さ」について多面的・多角的に考えられるようになっていた。
- ・ 廣済堂あかつきでは、生命尊重を重視し、「生命の尊さ」、「人権・いじめ防止」に関して、さまざまな角度から考察できるようになっていた。また、「生命の尊さ」については、最重点項目と位置付け、全学年に3教材、3時間配当しており、深く考えられるようになっていた。
- ・ 日本教科書では、「いじめ問題」を直接的に扱う教材に加え、「正義、寛容、人権、人間愛」など様々な教材の主題を通して「いじめを許さない心」の育成が図られ「生命の尊さ」を考える教材を各学年3つ配置し、多様性を受け入れることができるようになっていた。

議長

- ・ 情報モラルに関する内容の取り扱いについて説明いた

だきたい。

専門員
代表

- ・ 情報モラル教育について、各社取り扱っている。
- ・ 東京書籍では、SNSでのいじめなど新しい情報モラルの問題の教材があった。
- ・ 学校図書では、情報機器を媒体として相手に接したり、情報を活用したりする内容について扱った教材があった。
- ・ 教育出版では、情報とよりよく付き合うことを重視した教材があった。
- ・ 光村図書では、情報モラルについて、教材とコラムを組み合わせた取扱いがあった。
- ・ 日本文教出版では、情報社会や倫理、情報セキュリティなどに関わる教材やコラムを組み合わせた取扱いがあった。
- ・ 学研では、情報についての取扱いや情報を扱う際の配慮事項などについての教材があった。
- ・ 廣済堂あかつきでは、全学年で情報モラルについて考えることのできる教材や、発達段階に応じた特集ページの取扱いがあった。
- ・ 日本教科書では、全学年で情報機器との関わりについての教材があった。

委 員

- ・ 国際理解教育についての取扱いはどのようになっているか。

専門員
代表

- ・ 国際理解教育については、全ての教科書で取り扱っていた。全学年での延べ数を報告する。
- ・ 東京書籍では、9教材の取扱いがあった。
学校図書では、6教材の取扱いがあった。
- ・ 教育出版では、5教材と補助教材1つの取扱いがあった。
- ・ 光村図書では、3教材とコラム3つの取扱いがあった。
- ・ 日本文教出版では、6教材の取扱いがあった。
- ・ 学研では、6教材の取扱いがあった。
- ・ 廣済堂あかつきでは、3教材と資料3教材の取扱いがあった。
- ・ 日本教科書では、4教材の取扱いがあった。

委員	・ どの教科書にも、オリエンテーションが設定されているが、特にどのような特徴があるか。
専門員
代表	・ 東京書籍では、はじめに「話し合いのてびき」と「道徳の授業はこんな時間に」からページが始まっていた。「話し合うときの約束」には、司会の生徒が司会カードを参考にしながら、話し方を進めることができるように参考文例が示されていた。「道徳の授業はこんな時間に」には、『拓哉のなやみ』を読んで実際に考え、話し合う場面が設定されており、話し合いの流れについても、漫画でわかりやすく説明されていた。・ 学校図書では、はじめに年度当初の学級づくりも含め「さいころトーク」での友達づくりから始まっていた。さいころトークを通して、話している人がどんな人なのか、相手の思いを受け止めながらよく聞いて、楽しく付き合うきっかけづくりを兼ねて設定されていた。・ 教育出版では、はじめに「道徳って、どんなふうに学習したらいいの？」からページが始まっていた。「自分に引きつけて、友達と考えを出し合って、いろいろな視点で、考えたことを生かして」の会話の様子が紹介されていた。また、実際の教材を取り上げ、考える時のポイントが紹介されていた。・ 光村図書では、「対話で広がる道徳の時間」からページが始まっていた。グループやクラスで話し合うことで、「他者との対話」を行い、「自分と対話」することで、どんなことに気付くか、また生徒がこの教科書を通して主体的に学べるように工夫している5つの要素について説明されていた。・ 日本文教出版では、「道徳科で学ぶこと・道徳科での学び方」からページが始まっていた。「道徳科で学ぶこと」では、学習する4つの視点とそれぞれの22の内容項目が示されていた。また、「道徳科での学び方」では、「気づく」から「考え、議論する、深める」そして、「見つめる、生かす」の流れが具体的に説明されていた。そして、学びをより深めるための手立てが写真付きで説明されていた。・ 学研では、「新しい扉を開く」からページが始まっていた。考えを深める4つのポイント「教材と出会う」から

「教材をもとに考える」そして、「話し合い、磨き合う」さらに、「生き方について考えを深める」が、それぞれ具体的に示されていた。また、思考の順序がイラストを用いて説明されていた。

- ・ 廣済堂あかつきでは、「自分をみつめようー道徳の時間とはー」からページが始まっていた。道徳の時間は、「さまざまな答えがある」、「よさや問題点を見つけ、考える」、「ともに考え、話し合う」、「自分を見つめ、考える」、「書くことで、考えを深める」ことについて説明されており、自分自身に問いかけながら、あたらしい生き方を探していくことが紹介されていた。
- ・ 日本教科書では、「道徳科って何を学ぶの？」からページが始まっていた。「道徳科の授業は、物事を広い視野からとらえ、話し合うことを通して、人間としてよりよい生き方についての考えを深める学習の時間」であるとともに、多様な考えを知るための6つの活動について、具体的に説明されていた。

議長

- ・ 他にいかがか。

委員

- ・ 振り返りについては、どのような特徴があるか。

専門員
代表

- ・ 巻末に記載するものと、別冊のノートを活用する出版社があった。
- ・ 東京書籍では、教材に設定されている「つぶやき」や巻末にある「自分の学びを振り返ろう」等の活用があった。「自分の学びを振り返ろう」では、今学期を振り返って記録するとともに、来学期への目標を書くようになっていた。
- ・ 学校図書では、「学びの記録」や「心の扉」の活用があった。「学びの記録」では、各教材で学習したことを記録するとともに、道徳の学習について、保護者の方へも伝えることができるようになっていた。「心の扉」でも、現在を見つめ、今後の方向性について考える問いになっていた。
- ・ 教育出版では、巻末に「道徳の学びを記録しよう」の活用があった。心に残った教材を学期ごとに記録するようになっていた。

- ・ 光村図書では、教材の巻末にある「私の気づき」や「学びの記録」の活用があった。「学びの記録」では、シーズンごとに、自分を振り返り、学んだことやそれを生かしていきたいと思ったことなどを自由に書き留めることができるようになっていた。
- ・ 日本文教出版では、別冊「道徳ノート」の活用があった。自分で考えたことなどを記録するところと、授業で学んだことについて記録する「自分に+1」があった。
- ・ 学研では、巻頭に年度当初に自分を見つめ記録する「マイプロフィール」と、巻末に1年間たって心の成長に気付いたときに書き留めておく「心の四季」の活用があった。
- ・ 廣済堂あかつきでは、別冊「中学生の道徳ノート」の活用があった。教材ごとに、今までの自分とねらいを達成するために、自分のアイディア等を書くことで、自己理解を深め、自らの心の成長を実感できるようになっていた。
- ・ 日本教科書では、巻末に「道徳の時間の振り返りと心の成長の振り返り」の活用があった。

議 長 ・ 他に何か質問はあるか。

委 員 ・ なし。

議 長 ・ 以上で、選定についての質疑を終了する。
(専門員代表退室)

(6) 協 議

議 長 ・ それでは、(6) 協議に入る。
 ・ これまで、委員の皆様もそれぞれ教科書研究を進められてきたことと思われるが、先ほどの専門員調査研究報告も踏まえ、ご意見を伺っていく。
 教科書発行者は8社あるので、はじめに1社ずつ特徴を中心にご意見を伺っていき、その後、総合的にどの教科書を選定するか決めていきたいと思うが、よろしいか。

委 員 ・ 異議なし

議長	・ それでは、目録の順でまいる。
議長	・ まずは東京書籍から、意見を伺う。
委員	・ 一言でいうとUD、いわゆるユニバーサルデザインを意識している印象を受けた。文字の大きさ、太さ、行間の広さ、行番号の配置等、工夫がされている印象をうけた。
議長	・ 他にいかがか。
委員	・ 見開き「話し合いの手引き」は、これを見ながら話し合いが進められるように工夫されており、主体的に学習できるようになっていると思った。
委員	・ 巻末に補助教具として「心情円」があり、考えたり思ったりしたことを可視化できる工夫が見られる。生徒が主体的に意思表示をすることができ、それをもとに議論が深まりそうな感じがした。
委員	・ 2時間扱いの問題解決的な学習の配置や、「アクション」としてのグループエンカウンター、あるいは、モラルスキルトレーニング等、体験的な学習を配置し、「道徳性の育成」を意識した構成になっていると感じた。
議長	・ 現代的な課題の取り上げ方はいかがか。
委員	・ 全体で「いじめ」「いのち」について、複数教材を組み合わせたユニットが配置されている。多角的・多面的に考える授業が展開できるのではないかと思う。
委員	・ 現代的な課題で言うと、SNSでのいじめなど新しい情報モラルの問題についても積極的に取り上げている。
委員	・ 各学年で情報モラルに関する教材を取り上げ、挿絵や写真、漫画といった具体的なものを取り入れるなど、生徒が身近な課題と感ずるよう工夫されていると思っ

- た。
- 議長 ・ 他にいかがか。
- 委員 ・ なし。
- 議長 ・ 続いて、学校図書はいかがか。
- 委員 ・ 新聞、漫画、詩や写真など紙面づくりの工夫がみられ、印象的だった。
- 委員 ・ 特徴的だったのは、道徳の4つの視点で色分け・マーク化がされている。さらに、重要な現代課題などを10のポイントマークで示していることで、生徒が何について学習したらよいのか見通しをもちやすいのではないか。
- 委員 ・ 今、話した10のポイントで示されている、いじめ、情報モラル、生命の尊厳など、現代的な課題に迫る多彩な教材が掲載されているように思う。
- 議長 ・ その他いかがか。
- 委員 ・ 全教材に、「学びに向かうために」を提示し、「問題解決的な学習」「体験的な学習」を発問の中に取り入れている。これらは、多様な学習を通して考えを深める「考え、議論する」道徳を意識していると思う。
- 委員 ・ それに加えて多くの教材の最後に、「心の扉」を設け、道徳的価値に焦点化し、記載内容を深化させていく配慮がなされていると感じた。
- 委員 ・ 主題について自分自身のものの見方や考え方を深めていくことができる。
- 議長 ・ 他はいかがか。
- 委員 ・ 「学びの記録」の積み重ねが、夏休み、冬休みを挟む三

	つの期間に区切られていて、それぞれの期間の道徳の学びを振り返ることができるようになっていた。
委員	・こちらは教師が、評価に活用することができるのではないか。
議長	・他によろしいか。
委員	・なし
議長	・続いて、教育出版はいかがか。
委員	・落ち着いた色彩を使用している印象を受ける。教材の場面にあった様々な写真、挿絵、漫画、詩の資料などをかなり掲載している。
委員	・全学年の巻末に、それぞれの都道府県にゆかりのある偉人の言葉を掲載しているのも特徴的であった。
委員	・教材では、冒頭に主題につながる問いが記載されていて、生徒たちは、どのようなことを考えていくのか意識して、授業に臨むことができるような工夫があるのではないか。
委員	・今の話に関連すると、確かに問いがはじめにあると、学習のねらいを子供たちに把握させることができる。合わせて、終わりには、「学びの道しるべ」という項目があり、内容に係る3つの問いを掲載していて特徴的である。授業で活用することで、まさに道徳的価値というものを深めることができると思う。
委員	・全学年の複数教材で「やってみよう」が設定されている。こちらも道徳的価値の理解や、その体験・行為について考えを深めるよい機会になると思う。
議長	・他にはいかがか。
委員	・全学年を通じて「生命の尊さを考える」と共に「いじめ

	や差別のない社会に」「情報とよりよく付き合う」の3項目を重視し、内容の系統性をもたせているものを複数掲載している。
委員	・特に「生命の尊さ」を重点項目として各学年に2～3教材を取り上げている。
議長	・他にいかがか。
委員	・なし。
議長	・続いて、光村図書はいかがか。
委員	・一般的な文章・物語等、読み物的な教材に加えて、扱っている教材が多種多様であり、いじめ・共生・国際理解をはじめ、現代的な課題について積極的に取り上げている。
委員	・生徒の興味・関心を引き出し、生徒の学習意欲が喚起されるような工夫がされている。小学校で学習した教材を掲載し、今の自分の考え方と過去の自分の考え方を比較させるような工夫もされている。
議長	・他はいかがか。
委員	・教科書の内容が、1年間で4つのシーズンに分かれていて、テーマをもった9つのユニットを通して学べるようになっていた。
委員	・3年間の系統性や連続性を意識した構成になっていると感じた。
委員	・教材ごとに「学びのテーマ」が設定されていて、3つに分けて発問が設けられている。考える観点を明確にしていることで、ねらいに迫り、考えを深めていくことができるのではないか。
委員	・「つなげよう」や巻末の「学びの記録」を通して、生徒

が自分の考え方や生き方について記録することで、道徳的価値の理解を深めることができると思う。教師は、評価に活用することができる。

議長 ・ 他にいかがか。

委員 ・ なし。

議長 ・ 続いて、日本文教出版はいかがか。

委員 ・ 本冊と「道徳ノート」との2冊構成となっている。「道徳ノート」に自分の考えを継続して書くことで、生徒が自らの成長を実感したり、自分の生き方について考えたりすることができるのではないか。

委員 ・ 「道徳ノート」には、友達の意見などのメモをする欄が設けられていて、多面的・多角的に思考を深めることにつながったり、教師は評価に生かしたりにすることもできると思う。

議長 ・ 他にはいかがか。

委員 ・ 全ての教材に「自分に+1」が提示され、主題やねらいについて考えさせることで道徳性、いわゆる道徳的判断力、心情、実践意欲と態度、こういったものの育成につながるのではないか。

委員 ・ 他には、複数の教材に「学習の進め方」が設けられており、写真で問題解決的な学習や体験的な学習の場面が例示されていると感じた。

委員 ・ 「考え、議論する道徳」の展開につながると思う。

議長 ・ 現代的な課題についての取り上げ方についてはいかがか。

委員 ・ 何とんでも「いじめ防止」が全学年で重点的な項目として位置づけられていて、「いじめと向き合う」ことを

	<p>しっかりと意識させ、複数の教材やコラムをとおして、重点的に考える工夫が印象的であった。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化・生命倫理・国際理解・情報モラルなどの教材やコラムが現代的な諸課題について、9つにユニット化されていて、その連続性を生かして、道徳的価値について深く考えることができると思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他にいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続いて、学研はいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書が大きく、絵や写真が映え、余白も適度にあり、読みやすい印象を受けた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色として、巻頭「マイプロフィール」で自分を見つめ、巻末「心の四季」で一年間の学びを振り返ることで、自分の成長が感じられるような工夫がされていると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「クローズアップ」など3種類の特設ページが教材の後ろについており、多様な学習指導過程を通して、自己を見つめたり、生き方を考えたり、自尊感情を高めたりすることができるのではないかと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全く同じだと思う。「生命尊重」と「いじめ防止」を重要なテーマに現代的な課題について取り上げ、アンガーマネジメントやメンタルトレーニングなど、体験的な学習を通して、道徳性の育成を図る工夫が見られると思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他にはいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒自らが主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視していて、あえて教科書に主題名を表示せず、生徒の問題意識を大切にした構成になっ

	<p>ているところに特徴があると感じた。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 一つのテーマに関連する複数教材を連続させ、複数時間の授業を関連させるユニットも取り入れている。同じテーマを異なる視点や内容項目から考えさせることで、多面的・多角的に考えを深めたり発展させたりする工夫が随所にされていると感じた。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 他にいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> なし。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 続いて、廣済堂あかつきはいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 教材と道徳ノートが2冊構成となっていることが特徴である。ノートへの記述や振り返りを通して、生徒が自分を見つめたり成長を実感できたりするよう工夫がされているように思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 道徳ノートだが、巻頭のプロフィールと巻末の「心のしおり」が工夫されていて、自己の成長や課題、目標を見つけられるようになっていて工夫されている印象を受けた。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 他はいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 教材ごとに「考える・話し合う」を設置し、様々な視点からの問いを示し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す工夫がされていると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 従来の道徳教育では、価値の押しつけはよくないと指摘されていた。こちらの「考えを広げる・深める」での問いは、道徳的価値の理解を深めることにつながると思った。すべての教材において、学習する道徳的価値に関わる格言、名言を掲載しているところも印象的だった。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題についての取り上げ方についてはいかが

か。

委員	・ この件に関しては、全学年にわたって、生命の尊重を重視している。最重点項目と位置づけ、「生命の尊さ」「人権・いじめ防止」に関する教材が充実しており、「生命の尊さ」に関する教材は、全学年3教材、3時間配当してある。
委員	・ 現代的な課題に関わる「情報モラル」について考える教材を全学年に掲載してあると思う。発達段階に応じた特集ページも設定されていると思った。
議長	・ 他にいかがか。
委員	・ なし。
議長	・ 続いて、日本教科書はいかがか。
委員	・ 「道徳科って何を学ぶの？」を掲載しており、道徳の学習の流れがわかる工夫がされている。生徒が見通しをもって、主体的に議論に参加し、多様な考えを知るための工夫がされていると思った。
委員	・ 全ての教材に「考え、話し合ってみよう そして深めよう」の問いが設けられており、「考え、議論する道徳」の学習を通じて主題やねらいに迫れるのではないか。
議長	・ 他にはいかがか。
委員	・ 教材が学習指導要領の内容項目順に配置されているのが特徴的であると思った。
委員	・ 現代的な諸課題では、「LGBT」や「情報モラル」「障害者差別」「いじめ問題」「キャリア教育」といった多様な教材が掲載されているところが印象に残った。
委員	・ 各学年に自己と向き合うテーマを設け、教材を通して現代社会に想定される課題に向き合わせることで、道

- 徳的価値に迫る工夫がされていると感じた。
- 議 長 ・ 他によろしいか。
- 委 員 ・ なし
- 議 長 ・ それでは、よろしいか。
・ ただ今、8社の教科書の特徴を中心に意見を述べていただいたが、ここからはこれまでの報告や意見を総合的に踏まえ、第四採択地区としてどの教科書を選定するか協議していく。意見を願います。
- 委 員 ・ まず、どの教科書も見やすさ、ユニバーサルデザインを意識して作成されており、読みやすい工夫がされている印象を受けた。私は、東京書籍と学校図書が読みやすく、工夫や文字の大きさ、行間、全体のレイアウトがよいと感じた。他はいかがか。
- 委 員 ・ 光村図書と教育出版は、物語によって段組みされている教材もあり、中学校らしいレイアウトだと感じた。日本文教出版と廣済堂あかつきは、本冊と別冊道徳ノートに分けるという構成の工夫が特徴的だ。
- 委 員 ・ 日本教科書は、表紙の写真にインパクトがあり、書名も学年ごとに意図的に変える工夫が見られる。
・ 学研は教科書の大きさが他の教科書より大きいA版である。絵や写真も大きく、行間が広くて読みやすく感じた。
- 議 長 ・ 各社、表記・表現等の体裁の工夫がある。中学校においても、従来の道徳から、「考え、議論する道徳」への転換が求められているが、その観点からはいかがですか。
- 委 員 ・ どの教科書も、答えが一つでない道徳的な課題を、自分自身の問題ととらえ向き合い、考え交流することができるように工夫がしてあった。
- 委 員 ・ 先ほども出たが、教育出版の「学びの道しるべ」がよい

と思った。内容に関わる3つの問いと、冒頭の主題に係る問いと合わせることで、課題について深く考えられるのではないか。

委員 ・ 廣済堂あかつき、「考える・話し合う」や、日本教科書「考え、話し合ってみよう そして深めよう」では、複数の問いを示して、多様な考えを引き出せるのではないかと感じた。

委員 ・ 光村図書の「学びのテーマ」も、考える観点を明確に示している。また、考えの視点を変える「見方を変えて」も設定されていた。

委員 ・ 学研は、あえて教材の最後に一つだけ主題に係る問いを示していることで、話し合いが固定化・形式化せず、子供たちの考えを深めることができそうな印象を受けた。

議長 ・ どの教科にも、「考え、議論する道徳」の展開を図るための工夫が見られる。

委員 ・ 私は、学校図書の「学びに向かうために」の提示が、「問題解決的な学習」「体験的な学習」など、多様な学習につながると感じたが、いかがか。

委員 ・ 私も同感である。学校図書は教材の最後の「心の扉」も道徳的価値を自分との関わりとして捉えながら、考えられると思った。

委員 ・ 日本文教出版も「自分に+1」で主題やねらいと自己とのつながりについて考えさせることができる。また、「学習の進め方」の例示が、主体的な話し合いにつながると感じた。

委員 ・ 東京書籍の「話し合いの手引き」も、対話とか交流、意見の認め合いなどが提示されていて、深い学びにつながられると思う。

- 議長 ・ それでは、自分の考えを広げたり、まとめたりすることについては、いかがか。
- 委員 ・ 日本文教出版と廣濟堂あかつきは、ノートを活用することで、毎回の積み重ねを通し、自己との対話が深まると思う。
- 委員 ・ 東京書籍は、教材の下段に、「つぶやき」があり、その場面に対する、考えを記述することで、自分との関わり、道徳的価値を意識できるのではないか。
- 委員 ・ 東京書籍の、問いに対する考えの記述の積み重ねは、評価にも活用できると思う。
- 議長 ・ 他にいかがか。
- 委員 ・ 同じような視点で言うと、学校図書と光村図書は、毎時間の学習の振り返りを記述することで、気づいたことや自分の生き方についての考えの積み重ねができ、変容を見ることができるよう工夫されている。
- 議長 ・ 「いじめの防止」を含めた現代的な課題の取り上げ方については、いかがか。
- 委員 ・ 東京書籍や光村図書、日本文教出版は、様々なユニット形式で、複数の教材やコラム、特設ページを組み合わせ、重点的に取り組む工夫をしていた。
- 委員 ・ いじめの問題は、いろいろな考え方、葛藤が混じり合うものがあって、そういう視点で言うと、東京書籍は、複数の登場人物の心情について、考えさせ、立場の違いにより様々な感じ方があることに気付く工夫も見られた。
- 委員 ・ 日本教科書は、教材内容や問いの設定などから、どうして意見や考えの違いが生じるのかを考えさせる工夫が見られたように思う。

委員	・ 教育出版や学研、廣濟堂あかつきは、重点テーマを設け、系統性、連続性を意識した組み合わせがされていると感じた。
議長	・ 他はいかがか。
委員	・ 各社重点課題として扱っているが、印象に残ったのが学校図書の教材は、いじめ防止のために、直接教材と間接教材から、この問題に迫っているところがよいと感じた。
議長	・ 他はいかがか。
委員	・ 私は、学研、光村図書の教材の資料に厚みがあり、道徳性を養うための内面的資質に訴えかけるのではないかと感じた。
委員	・ 東京書籍は、「アクション」での役割演技を通じた体験的活動において、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を高めていく工夫ができると思う。
委員	・ 東京書籍は、巻末付録「心情円」の活用を通して、自分の考えを視覚的に表し、その変化にも気付くことができ有効的であると思った。
委員	・ 学校図書は、「学びに向かうために」の中で、意見交換を設定しており、友達考えに触れることで、自分の考えが深まり、道徳的態度を養うことができるのではないかと考えた。
委員	・ 日本文教出版と廣濟堂あかつきは、書くことを通して、自己と向き合うことで、生徒が自分の考えを深めたり、整理したりすることがうまくできそうだ。
委員	・ もう一社印象的だったのが、教育出版の「心のかがやき度」は、道徳の学習で学んだこと、感じたことを指標として表すことができるのが大変よいことではないか。

委員	・ 学校図書は、「さあ、楽しい夏休み！」の中で、長期休業中を活用しての道徳の学びの提案があり、道徳性の育成につながると感じた。
委員	・ 同じ学校図書において、「保護者の方へ この教科書で目指すこと」という形で、発達段階に応じて明記がされていて、家庭と連携するということにおいて、道徳性を養う視点を取り入れているのが特色だと思う。
委員	・ 東京書籍と光村図書は、小学校で学習したことのある教材を掲載することで、自分自身の考え方の成長を感じることができるかもしれないと思った。
議長	・ 道徳の授業は、全教育活動を通して行う教育の要となる。他教科との関連はいかがか。
委員	・ 東京書籍は、資料名の頁の下に、関連教科の記載があり、一目でわかる工夫がされている。また、コラムの「プラス」で学習した内容を広げられるのもよいと思う。
委員	・ 学研は巻末に、各教科領域との関連例が一覧で掲載してあり、内容項目、資料と各教科との関連がよくわかる気がする。
委員	・ 学校図書は、10のポイントのマーク化により、先生と生徒も関連項目を意識することができる。
議長	・ これまでの意見をまとめていくと、どの教科書についても特に問題点は指摘されず、各社ともに大変工夫がされていた。中でも特に東京書籍と学校図書の特徴について多く意見が挙げられたようだが、この2社に絞って協議していくということではよろしいか。
委員	・ 異議なし
議長	・ では、東京書籍と学校図書の2社についてさらにご意見をいただき、最終的に第四採択地区としての意向を

とりまとめていきたいと思う。

委員 ・ まず、学校図書の「学びに向かうために」の問いが、「登場人物への自我関与」「問題解決的な学習」「体験的な学習」という、多様な学習展開につながり、大変工夫されており、自ら「考え、議論する」道徳の実現に向けてそれなりのよさをもっていると感じた。

委員 ・ 私も同感である。教材や生徒同士の対話を手がかりにした、「心の扉」を通して、自己との関わりを問い直すという構成がよいと感じた。価値の押しつけではなく、自分自身でそういうものに気付いていくような、問いかけの構成がよい。

委員 ・ 東京書籍もユニバーサルデザインの資料のまとめり、巻末付録「心情円・ホワイトボード」、また「アクション」の役割演技等、多様な学習展開への工夫が挙げられ、甲乙つけがたいのが正直なところだと思う。

委員 ・ 私も東京書籍のよさも非常に感じているが、学校図書は、冒頭の主題の提示から、「学びに向かうために」の多面的・多角的に考えさせる問いを、順序立てて設定している点が、生徒の思考・意見交流が深まり、よいと思った。

委員 ・ 確かに学校図書は、様々な問いが充実していてよい。経験年数が少なかったり、道徳の授業が得意ではなかったりする教員でも授業がしやすく、「考え、議論する道徳」につながると思う。また「心の扉」は、事前事後指導にも使えて内容項目の理解が深まると思う。

委員 ・ 先ほど出てきた話題に重複する部分もあるかと思うが、特徴的だと思うのが、現代的な課題や教科等の関連についても学校図書は、バランスよく配置されている。10のポイントマークを意識することで、内容項目から一步踏み込んだ、考え、議論する道徳が推進できるのではないかと思う。

	議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に意見はあるか。よろしいか。 ・ それでは、皆さんの意見をまとめると、学校図書でよろしいか。
	委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし。
	議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、第四採択地区としての中学校「特別の教科道徳」の教科書の意向は、学校図書とする。
	議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各市教育委員会においては、本日の選定結果にもとづき採択していただくことになるのでよろしくお願い申し上げます。
	議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上で、議長の任を解かせていただく。ご協力に感謝申し上げます。
5 挨拶	司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に、戸ヶ崎副会長から御挨拶をいただく。 ・ 挨拶
6 閉会	司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉会の言葉